



S.Setoguchi

JRA70周年記念

THE KYOTO DAISHOTEN

第59回 農林水産省賞典 京都大賞典 (GII)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 67,000,000円 27,000,000円 17,000,000円 10,000,000円 6,700,000円
付加賞 770,000円 220,000円 110,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

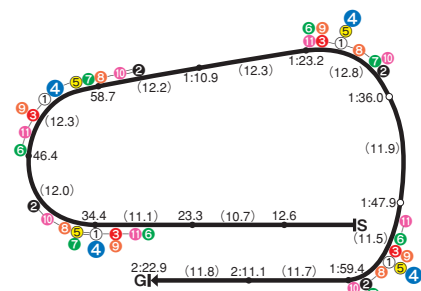
3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳54*、4歳以上57*、牝馬2*減、2023.10.7以降G I競走(牝馬限定競走を除く) 1着馬2*増、
牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く) 1着馬1*増、2023.10.6以前のG I競走(牝馬限定
競走を除く) 1着馬1*増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.10.6 京都 晴・良 芝2400m (国際) (確定)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	④	シュヴァリエローズ	牡	6	57	北村友一	2:22.9	6-6-5-5	34.2	468(+10)	22.5⑧	清水久詞(栗東)	113
2	⑦	ディーブボン	牡	7	57	幸 英明	アタマ	4-4-3-2	34.8	516(+8)	9.9④	大久保龍志(栗東)	112
3	③	メイショウブレゲ	牡	5	57	酒井 学	¾	8-8-8-8	34.1	474(+6)	154.4①	本田 優(栗東)	111
4	⑤	スマートファントム	牡	4	57	藤岡佑介	½	11-11-10-10	33.9	476(+8)	12.6⑤	石橋 守(栗東)	110
5	①	サトノグランツ	牡	4	57	川田将雅	クビ	6-7-5-5	34.5	506(+8)	2.8②	友道康夫(栗東)	
6	⑥	ドクタードリトル	牡	4	57	松山弘平	クビ	8-8-8-8	34.3	462(+2)	21.6⑥	今野真一(栗東)	
7	⑧	ブラダリア	牡	5	58	池添謙一	¾	3-3-4-4	34.9	470(+2)	6.1③	池添 学(栗東)	
8	⑩	バビット	牡	7	57	団野大成	クビ	2-2-2-1	35.5	470(+10)	57.1⑩	浜田多実雄(栗東)	
9	⑨	ジュンアライヨシ	牡	4	57	田口貴太	2½	4-5-5-5	35.1	486(-12)	21.8⑦	松下武士(栗東)	
10	②	ケイアイサンデラ	牡	4	57	藤懸貴志	7	1-1-1-2	37.0	444(+4)	35.0⑨	小林真也(栗東)	
11	⑪	ブローザホン	牡	5	59	菅原明良	2½	10-10-10-11	35.9	426(-2)	2.6①	吉岡辰弥(栗東)	

単勝④2,250円(8*) 複勝④510円(6*) ⑦340円(4*) ③2,570円(11*) 枠連④-⑥4,890円(13*)
馬連④-⑦9,910円(26*) ワイド④-⑦2,140円(22*) ③-④22,790円(53*) ③-⑦12,660円(48*)
馬単④-⑦25,550円(57*) 3連複③-④-⑦156,730円(128*) 3連単④-⑦-③1,419,720円(805*)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
34.4 - 46.4 - 58.7 46.9 - 35.0

アラカルト

- ・北村友一騎手はヒットザターゲットで制した13年に続く京都大賞典2勝目。JRA重賞は本年3勝目、通算30勝目
- ・清水久詞調教師はキタサンブラックで制した16年に続く京都大賞典2勝目。JRA重賞は本年4勝目、通算27勝目
- ・ディーブインパクト産駒はJRA重賞通算294勝目
- ・6歳馬の勝利は19年ドレドノータスに続く通算9回目
- ・シュヴァリエローズは天皇賞(秋)(G I)に優先出走できる

シュヴァリエローズ *Chevalier Rose*

牡 鹿毛 2018.5.4生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・(有)キャロットファーム 栗東・清水久詞厩舎
馬名意味・薔薇の騎士(仏)。母名より連想

ヴィアンローズFR系 F7-c

ディーブインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛 1986	Halo
		Wishing Well
	ウインドインハーヘアIRE 鹿毛 1991	Alzao
		Burghclere
ヴィアンローズFR Viane Rose 青鹿毛 2002	Sevres Rose 鹿毛 1993	Caerleon
		Indian Rose
	Princesse de Viane 鹿毛 1995	Kaldoun
		Life On The Road

5代までのインブリード:Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

木村純一 厩舎長(ノーザンファーム空港)

本格化には時間がかかると思っていました

厩舎長として最初に手掛けた世代の育成馬となります。デビューは早くなりましたが、本格化には時間がかかると思っていました。体質も決して強くはなかっただけに、コンスタントにレースを使ってもらえたのは清水久詞調教師やノーザンファーム天栄スタッフのおかげです。この夏は牧場で調整を行いました。2歳時よりも芯が入っている印象を受けました。

N.Inaba



夏競馬の後半戦から続いた中京開催が閉幕し、関西ブロックの戦いの舞台は京都へ。変則日程の今年、年の瀬まで続くロングラン開催の開幕を飾る京都大賞典は、宝塚記念の覇者フローザホンと4歳のGⅡ2勝馬サトノグラッツが人気を二分し、昨年の優勝馬ブラダリアが2頭に続く勢力図が描かれた。しかしそれらの上位人気馬は揃って敗れ、レースは大荒れの決着に。40万超えの高配当(3連単)が飛び出した波乱劇の主役を演じたのは、ディーブインパクト産駒の6歳馬シュヴァリエローズだった。

同型のバビットを従えて先手を奪い切ったケイアイサンデラがペースを緩

めずに思い切りよく飛ばし、レースはかなり速い流れ、縦に長い隊列で進行。ブラダリアは離れた2番手に控えたバビットの背後につけ、シュヴァリエローズの北村友一騎手は内のサトノグラッツと並んで中団を進む。一方、ダツシュが鈍かったフローザホンは1コーナーを後方2番手でターン。その後も追走に苦勞し、反撃の糸口をなかなか掴めなかった。

大逃げを打ったケイアイサンデラの脚勢は3コーナーの坂の下りで鈍り、かわってバビットが先頭へ。早めに仕掛けられた7歳の古豪ディーブポンドが残り100m地点でこれをかわし、最内を突いて追い込んだスマートファントムも前に迫る。とはいえ徐々に差を詰め、直線に向いて加速にかかったシュヴァリエローズは一枚上の末脚を発揮。粘りに粘るディーブポンドをねじ伏せてゴールに飛び込んだ。

4歳時の1月に3勝クラスを卒業した後は勝利から遠ざかり続けていた本馬だが、6歳を迎えた今年、2000m超えの中長距離戦に照準を定めてから成績が安定。前走の目黒記念でも周囲の低評価(10番人気)を覆ってクビ差の2着に食い下がった。夏休みを挟んで臨んだこの日は父の産駒が得意にしているレース(昨年のブラダリアまで通算6勝で躍動。遅咲きの良血を開花させ、6歳の秋に重賞ウイナーの仲間入りを果たした)。

父ディーブインパクト

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央、仏14戦12勝(ジャパンC^{G1}、日本ダービー^{G1}、皐月賞^{G1}、菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞(春)^{G1}、宝塚記念^{G1})、年度代表馬2回、07年から供用、19年死亡。12~22年日本リーディングサイヤー。10~14、16~21年日本2歳リーディングサイヤー

〔代表産駒〕コントレイル、ジェンティルドンナ、グランアレグリア、シャフリヤール、ロジャーバローズ、ウグネリアン、マカヒキ、キズナ、ディーブプリランテ、サトノダイヤモンド、ミッキークイーン、ディーマジェスティ、アルアイン、フィエールマン、ワールドプレミア、アスクビクターモア、ラヴズオンリーユー、シンハライト、ハーブスター、マルセリーナ、アユサン(以上国内クラシック勝ち馬)

母ヴィアンローズFR

仏10戦4勝(ノネット賞^{G3}、フィンランデ賞^L、ブシケ賞^{G3}2着、ロゼドメ賞^L2着)、06年輸入、23年用途変更

ディアシークレット(07 驕父フジキセキ)中央11戦0勝、地方3戦2勝

アドマイヤナシユア(08 牡父アグネスタキオン)不出走

ローズノブル(09 牝父ディーブインパクト)中央22戦4勝(S TV賞)、ジ

ュビリーヘッド(カーバンクルS^{Op}、函館スプリントS^{GⅡ}2着2回)の母

ローズミラル(10 牡父フジキセキ)中央24戦3勝(アクアマリンS、福島中

央テレビ杯、草駄天S^{Op}3着)、地方1戦1勝

ローゼクヴァルツ(11 牝父スペシャルウィーク)中央11戦0勝

グレートフルデッド(12 牝父ハーツクライ)中央1戦1勝

アジュールローズ(13 牝父ヴィクトワールピサ)中央13戦3勝(プリンシパル

S^{Op})

ジュンソリドル(14 牝父ゴールドアリュール)中央6戦0勝、地方65戦8勝

ライレローズ(15 牝父ディーブプリランテ)中央22戦1勝、地方15戦1勝

アズローヴァー(16 牝父キンシャサノキセキAUS)中央24戦3勝(知立特別)

シュヴァリエローズ 本馬(18 牝父ディーブインパクト)中央30戦4勝(京都

大賞典^{GⅡ}、萩S・L、寿S、目黒記念^{GⅡ}2着、福島民報杯・L2着、若

葉S・L2着、メトロポリタンS・L3着)獲得総賞金219,673,000円

マイレッドスター(19 牝父キタサンブラック)中央7戦1勝、地方6戦3勝

アルジャヒリ(21 牝父アルアイン)中央4戦0勝、地方3戦0勝

カザンラク(22 牝父シルバーステート)⑥

(23 牝父アルアイン)

※17(流産)、20(不受胎)

波乱劇の主役は6歳の重賞未勝利馬

夏競馬の後半戦から続いた中京開催が閉幕し、関西ブロックの戦いの舞台は京都へ。変則日程の今年、年の瀬まで続くロングラン開催の開幕を飾る京都大賞典は、宝塚記念の覇者フローザホンと4歳のGⅡ2勝馬サトノグラッツが人気を二分し、昨年の優勝馬ブラダリアが2頭に続く勢力図が描かれた。しかしそれらの上位人気馬は揃って敗れ、レースは大荒れの決着に。40万超えの高配当(3連単)が飛び出した波乱劇の主役を演じたのは、ディーブインパクト産駒の6歳馬シュヴァリエローズだった。

同型のバビットを従えて先手を奪い切ったケイアイサンデラがペースを緩

めずに思い切りよく飛ばし、レースはかなり速い流れ、縦に長い隊列で進行。ブラダリアは離れた2番手に控えたバビットの背後につけ、シュヴァリエローズの北村友一騎手は内のサトノグラッツと並んで中団を進む。一方、ダツシュが鈍かったフローザホンは1コーナーを後方2番手でターン。その後も追走に苦勞し、反撃の糸口をなかなか掴めなかった。

大逃げを打ったケイアイサンデラの脚勢は3コーナーの坂の下りで鈍り、かわってバビットが先頭へ。早めに仕掛けられた7歳の古豪ディーブポンドが残り100m地点でこれをかわし、最内を突いて追い込んだスマートファントムも前に迫る。とはいえ徐々に差を詰め、直線に向いて加速にかかったシュヴァリエローズは一枚上の末脚を発揮。粘りに粘るディーブポンドをねじ伏せてゴールに飛び込んだ。

4歳時の1月に3勝クラスを卒業した後は勝利から遠ざかり続けていた本馬だが、6歳を迎えた今年、2000m超えの中長距離戦に照準を定めてから成績が安定。前走の目黒記念でも周囲の低評価(10番人気)を覆ってクビ差の2着に食い下がった。夏休みを挟んで臨んだこの日は父の産駒が得意にしているレース(昨年のブラダリアまで通算6勝で躍動。遅咲きの良血を開花させ、6歳の秋に重賞ウイナーの仲間入りを果たした)。